

## 通信添削講座 練習問題 解題

## 「夫婦が営む建築設計事務所を併設した住宅」

## 練習問題1

## (2) 構造、階数、建築物の高さ等

外壁の仕上げは乾式工法となっています。通常よく用いられるのが、「窯業系サイディング」です。この場合、下地は「胴縁」となります。

## (5) 要求室

通り土間の広さは、最低限打合せのテーブル（4席）を配置できる幅を確保することが必要です。壁心で2,730 mm以上確保してください。南北については、通り抜けができる必要がありますので、北側の外壁から南側の外壁までの広さとなります。

この通り土間によって、住宅部分と事務所部分が二分されると考えてください。

通り土間の天井高さは、床を下げることによって確保します。（第一課題と同じです。）住宅部分の床高さや階高を変更する必要はありません。

事務室は、ある程度ゆとりのある広さを確保することが必要です。必要な机やコピー機が入ればいいというものではありません。通路幅を適切に確保することはもちろんですが、仕事を行なうのに快適なスペースとなるよう考えてください。

玄関については、通り土間からの出入りとなります。いつも通り外からの出入りとするのは間違いとなります。注意してください。

## 2、要求図書

立面図における筋かいですが、平面図に記入した△印通りの位置に入れる必要があります。（柱間が910 mmか1820 mmかを確認すること）また、高さ位置も確認してください。1階の筋かいは、土台から胴差の間、2階の筋かいは、胴差と軒桁の間に入ります。左右は柱から柱の間です。

筋かいの記入については、最端エスキース・コードの75ページを参照してください。また、この解説の4ページにも参考図を載せておきます。

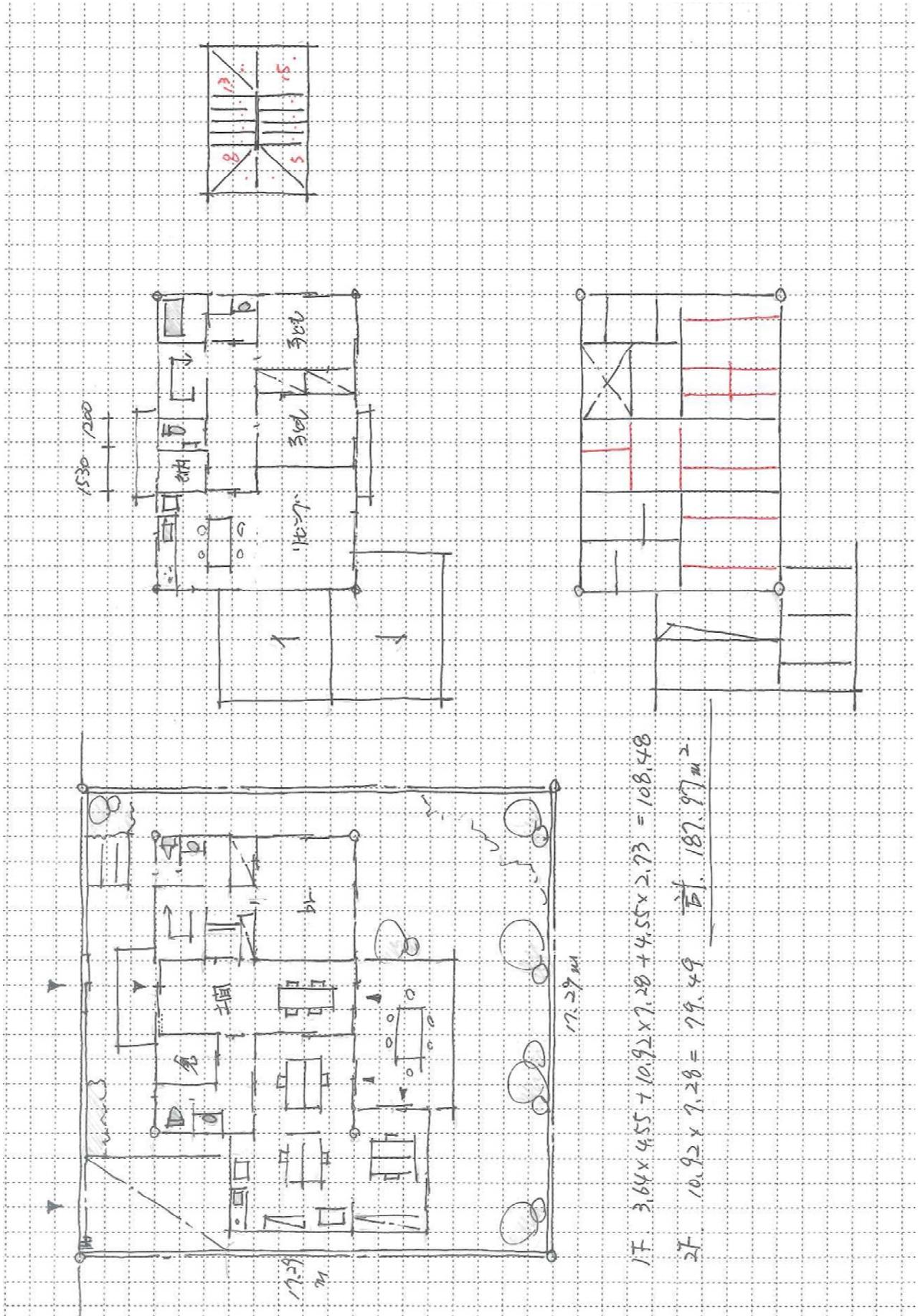
断面図は、通り土間を含む部分で切断します。通り土間の上部には2階を設けるように計画してください。もしくは、東西に切断して、通り土間が含まれるようにしてください。

詳細図において、仕上材と下地の記入が求められています。（添削課題では下地材の記入は求められていません。）多くの方は普段から下地材も記入されていますが、そうでない人は注意が必要です。（サイディングの下地は胴縁とします。）

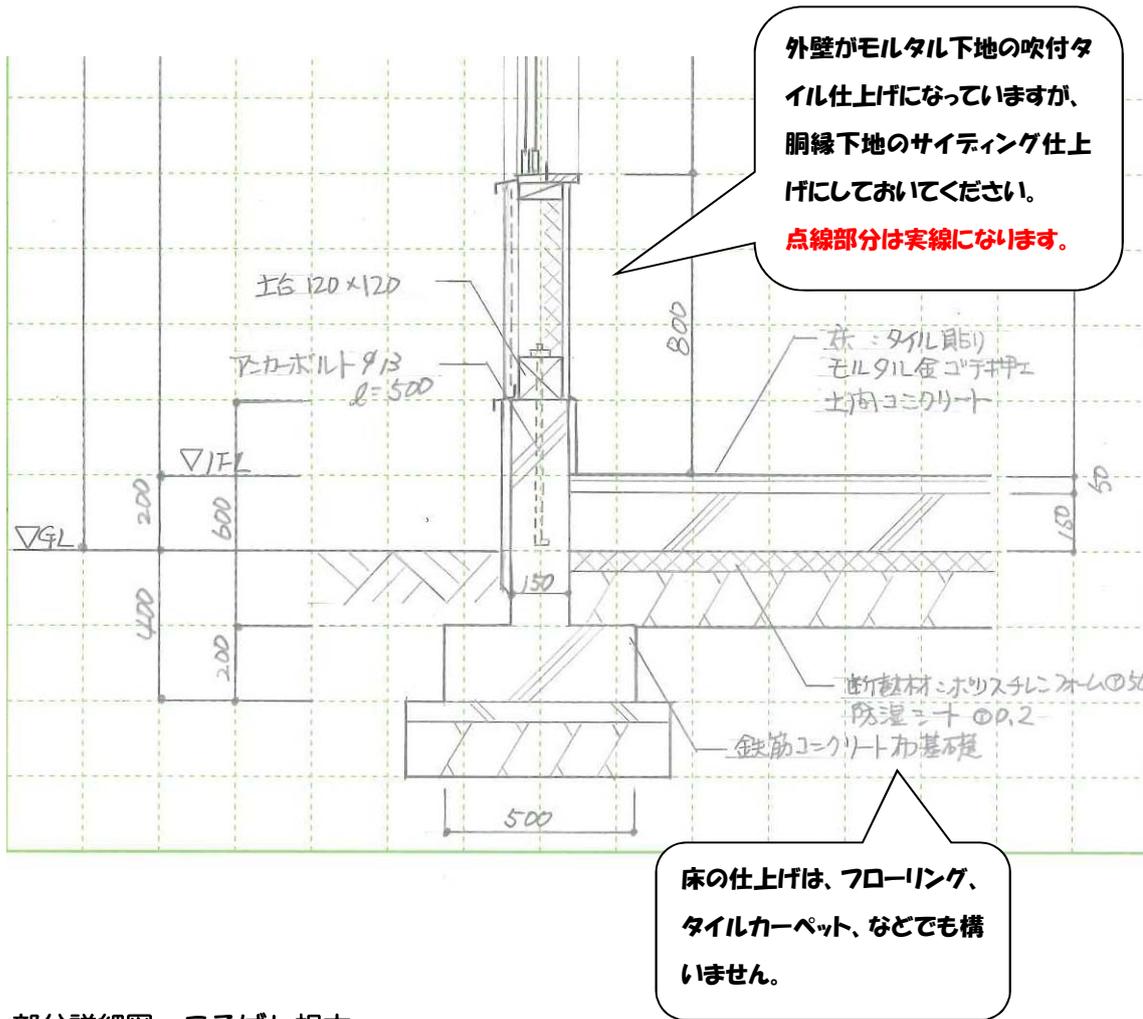
同じく詳細図においてですが、この問題では床下換気措置の記入は求められていません。記入は不要です。土足利用の場合は、通常、床高さを低くし、土間コンクリート床仕様とします。床下空間がありませんので、換気も不要となります。

床下の断熱と防湿措置は、設ける必要があります。

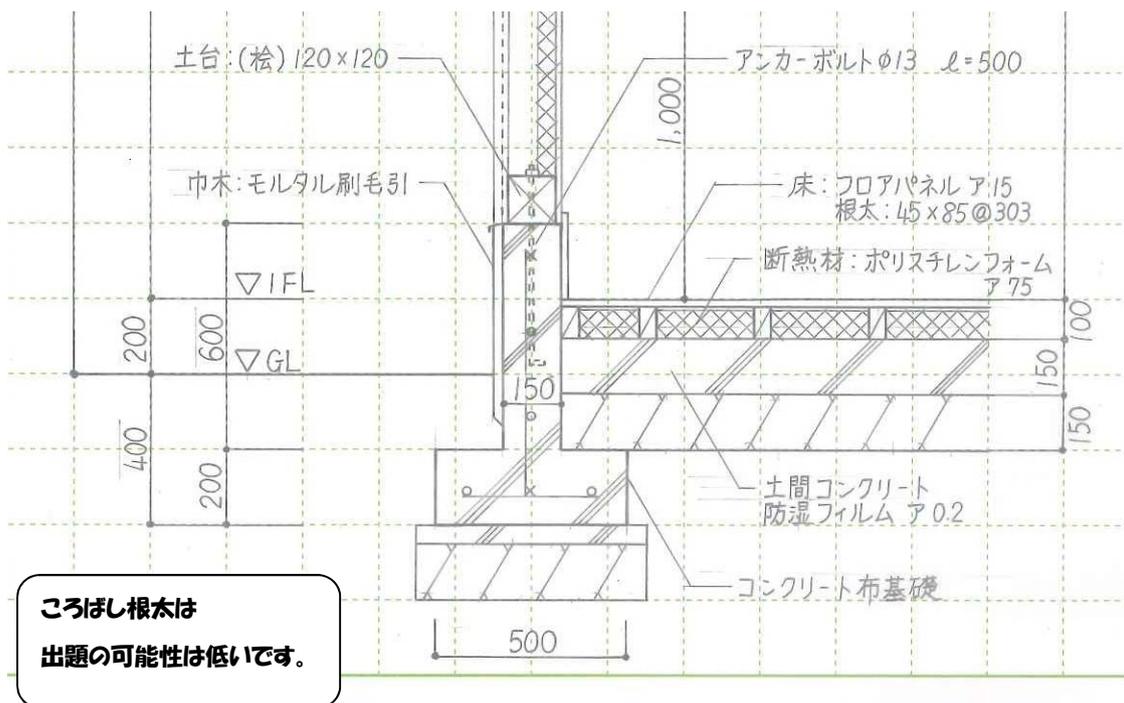
プラン図



部分詳細図 床タイル張り



※参考 部分詳細図 ころばし根太



立面図 ※筋かいの入れ方の参考図です  
この問題とは違う建物となっています。

